

平成28年度 理窓会代議員総会 来賓挨拶

学校法人 東京理科大学理事長
本山 和夫(47理工・経)



挨拶

理事長の本山でございます。皆様の日頃のご支援を御礼申しあげます。

今日は挨拶というより、理科大のめざす方向の概略についてお話ししたいと思います。

本学の財務状況は、収入を最近の20年という長いスパンで見たとき、80億円増加しています。それに対して、支出は155億円増加しており、75億円の支出超過ということになります。このうち教育研究費の支出については、減価償却費部分を除くと50億円ほど増えています。将来を見通しながら、安定した経営を行うための財務基盤を早期に確立しなければならないと考えています。

したがって、昨年から当面必要のないプロジェクトを中止してまいりました。例を挙げますと、葛飾キャンパスの隣接地の借り上げの中止、多くの混乱を招いたSAP投入の停止、経営学部への大学からの研修契約の中止、Goto Asia計画の中止、UPA留学資格の厳格化による価値のある、目的の沿った留学制度への変更など、多くのプロジェクトの見直しを実施し、結果として、平成28年度の経営計画は事業活動収支の改善が見込めるようになりました。理事会としては、本学の経営基盤の充実を図り、中長期の事業構想の収支を描きながら、ネットキャッシュを確実に積み上げることが基本方針にしたいと思っています。そして、将来にわたる本学の教育研究環境の整備を着実に実行したいと考えております。

学校の方向性

本学は今年で創立135年になりますが、本学は、「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」という建学精神に基づき安定した経営基盤を堅持し、研究者や企業人、教員、公務員など社会に貢献する人材を輩出していく使命を持っています。しかし、今後の日本の産業や大学を取り巻く環境については、ますます厳しくなっていくことが予想されています。日本の総人口が減少していく中で、GDP600億円を達成するという経済成長戦略もますますバーが高くなっていると言えます。ちなみに日本のGDPは世界で第3位ですが、国民一人当たりのGDPは第27位になっています。この順位をもっともっと上げて、国民が豊かになっていかなければいけないと思います。日本がさらに豊かになるためには、IoTやAIなどの新しい技術、いわゆるイノベーションを創出する、新産業や起業家を育成・養成することが必要なのではないかと思います。またこうした環境の中で、「日本の理科大から世界の理科大へ」というビジョンを掲げている理科大としては、イノベーションを巻き起こすことのできる人材を輩出することが重要な使命の一つになってきています。本日はこの方向性に沿った考え方の中から3つお話しいたします。

まず1点目は、教育についてですが、これまで本学は「実力主義」を教育の基本方針として有為な学生を数多く輩出してまいりました。2018年以降、日本の18歳人口が減少していくという環境の中で、本学が優秀な人材を育成し、社会の求めに応じた人材を供給していくことが大学発展のた

めの必要条件となります。したがって社会のニーズに応えるためには、大学院、学部、学科の在り方を絶えず見直していくことが必要と考えています。またそれに伴い、新しい学科の設立や適正な募集定員などに関する議論も出てくるかと思えます。学長室とも十分連携しながら、取り組んでいきたいと思えます。

次に、「世界の理科大」には欠かせない、本学のグローバル化、国際化ですが、現在全世界の約70機関と国際交流協定を結んでいます。今後、この数を増やすとともに、産学連携も含め、資金、人材の両面で研究を一層活発化し、世界のプレゼンスを高めていきたいと考えています。

グローバル化教育としては、大学院生の教育において重点的に実施したいと考えています。国際会議での英語発表や海外研究者とのコミュニケーションを促進するとともに、理科大ならではの研究を強力に推進することで大学院留学生の増加を図っていきます。

また学部の英語教育については、卒業時のTOEICの目標点を定めて、それに沿って各教育を進めていきます。

さらに本学としては、科学や技術あるいは専門的分野の知識を用いて社会に貢献できる人材に加え、人間的にも厚みのある学生を育て輩出することを考えています。そのためには教養教育を充実させ、広い視野を持って物事を考える習慣を付けることや、人とのつながりを重視し人に優しい人間性を育てる教育を行っていきたいと考えています。

少し細かいことをお話ししましたが、これらの方向性をもって、論議を重ねて、具体的な方針として今後示していきたいと考えています。

最後はキャンパスの整備について、まだ構想段階ではありますが、大まかにお話ししたいと思います。来年度、理工学部は設立50周年を迎えますが、野田校舎も老朽化してきましたので、来年度から6,7年かけて全面的に整備していきたいと考えています。収支のバランスを考えながら経営の安定化も図りつつ環境整備を進めていきたいと思えます。

葛飾キャンパスにおいても、研究棟に隣接する土地を購入し、整備に取り掛かる予定になっています。神楽坂キャンパスにおいては、経営学部が富士見校舎に来たこともあり、2021年を目標に再整備をしていきたいと思えます。

すべての長期的なプランの中から優先度などを判断しながら、着実に実施していきたいと考えています。本学を価値ある大学にするために努力していきたいと思えますので、よろしくお願ひします。

